統計の雑学

こんなの知っ TOUKEI !?

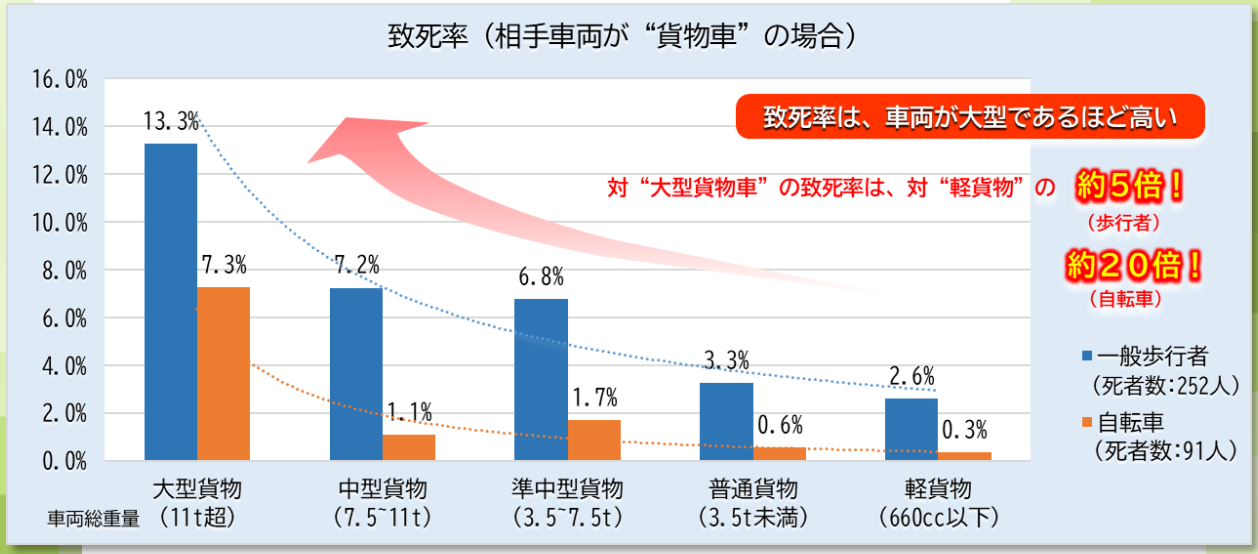
Vol.02

ご存じですか？ 歩行者・自転車の

「致死率」と“相手車両の大きさ”の関係

2008年～2022年までの15年間のデータに基づく致死率は、相手車両の車両総重量が大きいほど高く、大型貨物車×歩行者の場合13.3%に上ります。

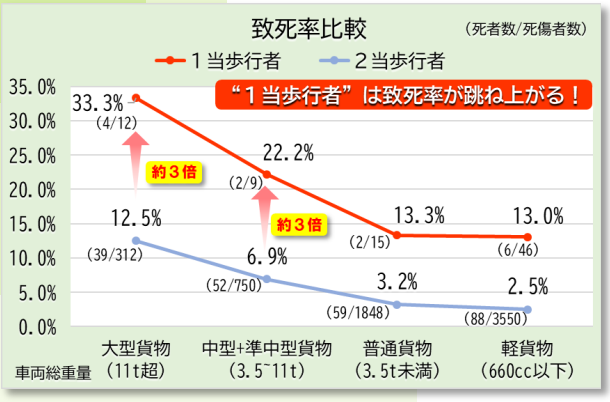
※ここで言う「致死率」とは、死者数を死傷者数（死者数＋重傷者数＋軽傷者数）で除した値をいう。



（出典）致死率：2008年～2022年の事故データより算出　（※物理解析等による理論値ではありません。）

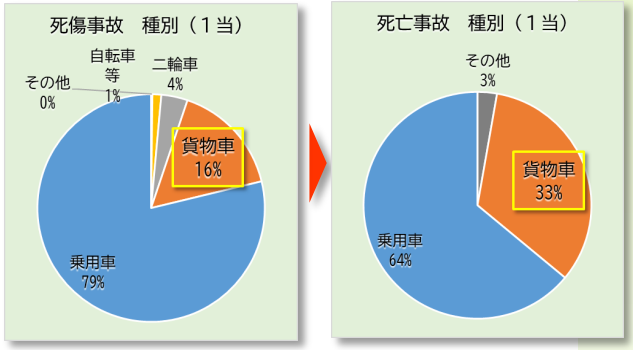
※　乗用車は安全装備等の装着が進む一方、装着率が当事者区分により大きく異なり、車両重量以外の要素によるところが大きいため算出から除外した。

交通事故における１当の種別割合は、乗用車が79%、貨物車が16%ですが、死亡事故になると貨物車の割合が全体の33%に倍増していることが分かります。



（出典）致死率：2008年～2022年の事故データより算出

※　準中型貨物はH29から設けられた区分のため、サンプル数が少ないことから、中型貨物に合算し算出した。



（出典）死傷事故種別割合：2008年～2022年の事故データより算出

さらに、同じ歩行者でも過失割合の高い１当歩行者の致死率は、２当歩行者に比べ致死率が跳ね上がり、対大型貨物車では約３倍の33.3%と３人に１人が亡くなられています。

福岡県警察本部 交通企画課 統計分析係